

反教育論

猿の思考から超猿の思考へ

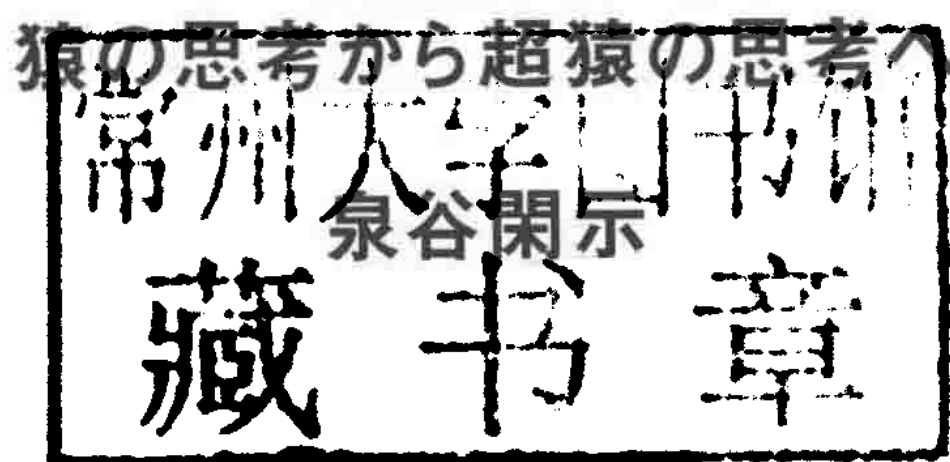
泉谷閑示



講談社現代新書

2195

反教育論



講談社現代新書

2195

講談社現代新書 2195

反教育論——猿の思考から超猿の思考へ

二〇一三年二月二〇日第一刷発行

著者 泉谷閑示 いずみやかんじ
© Kanji Izumiya 2013

発行者 鈴木哲

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽二丁目二二-二 郵便番号 112-8001
電話 出版部 〇三―五三九五―三五二一
販売部 〇三―五三九五―五八一七
業務部 〇三―五三九五―三六一五

装幀者 中島英樹

印刷所 大日本印刷株式会社

製本所 株式会社大進堂

定価はカバーに表示してあります Printed in Japan

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。[R]「日本複製権センター委託出版物」

複写を希望される場合は、日本複製権センター（〇三―三四〇一―二三八二）にご連絡ください。落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。

送料小社負担にてお取り替えいたします。

なお、この本についてのお問い合わせは、現代新書出版部あてにお願いいたします。



目次

序説 7

第1章 真の思考とは何か

「考える」ということ 20

「記憶力が良い」のは「頭が良い」ことではない 22

懐疑的精神の大切さ 28

人間の歴史は「反抗」によって始まった 31

即興性ということ 38

好奇心という基本動機 42

アンチ・マニュアル 45

好き・嫌いの大切さ 50

「わがまま」ということ 53

第2章 われわれの内なるオオカミとサル

59

『哲学者とオオカミ』 60

オオカミの世界 63

『荒野のおおかみ』 69

オオカミと暮らすピアニスト 74

日本のオオカミ信仰とオオカミの絶滅 85

第3章 「教育」に潜む根本的問題 91

人間には「教育」が必要という思い込み 92

「教育」は人間を信頼しているか 98

「道徳」が悪を生むという逆説 108

「集団生活のスキルを身につけさせるために」という大義名分 114

第4章

「正しい子育て」が子供をダメにする

早期教育の危険性

119

「基礎」神話の誤り

128

「音楽」なき音楽という悲劇

138

黄色い太陽

147

「良い学習環境」は本当に必要か？

154

「あとで苦労しないために」という考え方の間違い

160

閑暇の大切さ

164

「正しい」ではなく「自分で」

171

成長に不可欠な「嘘」と「秘密」

178

「美しい嘘」という泡

187

「アンダー・コミュニケーション」の大切さ

191

第5章 超猿の思考

「猿の思考」からの脱却	196
「習う」から「盗む」へ	201
師を選ぶこと	205
「守破離」「正反合」「駱駝・獅子・小児」	209
「内なる野性」に支えられた思考へ	218
意味と因果の統合	223
おわりに	233

反教育論

猿の思考から超猿の思考へ

泉谷閑示

講談社現代新書

2195

目次

序説 7

第1章 真の思考とは何か

「考える」ということ 20

「記憶力が良い」のは「頭が良い」ことではない 22

懐疑的精神の大切さ 28

人間の歴史は「反抗」によって始まった 31

即興性ということ 38

好奇心という基本動機 42

アンチ・マニュアル 45

好き・嫌いの大切さ 50

「わがまま」ということ 53

第2章 われわれの内なるオオカミとサル

59

『哲学者とオオカミ』 60

オオカミの世界 63

『荒野のおおかみ』 69

オオカミと暮らすピアニスト 74

日本のオオカミ信仰とオオカミの絶滅 85

第3章 「教育」に潜む根本的問題 91

人間には「教育」が必要という思い込み 92

「教育」は人間を信頼しているか 98

「道徳」が悪を生むという逆説 108

「集団生活のスキルを身につけさせるために」という大義名分 114

第4章

「正しい子育て」が子供をダメにする

早期教育の危険性

119

「基礎」神話の誤り

128

「音楽」なき音楽という悲劇

138

黄色い太陽

147

「良い学習環境」は本当に必要か？

154

「あとで苦労しないために」という考え方の間違い

160

閑暇の大切さ

164

「正しい」ではなく「自分で」

171

成長に不可欠な「嘘」と「秘密」

178

「美しい嘘」という泡

187

「アンダー・コミュニケーション」の大切さ

191

第5章 超猿の思考

「猿の思考」からの脱却	196
「習う」から「盗む」へ	201
師を選ぶこと	205
「守破離」「正反合」「駱駝・獅子・小児」	209
「内なる野性」に支えられた思考へ	218
意味と因果の統合	223
おわりに	233

序説

これまで人間の理性（「頭」）はおもに、大自然を征服することや、自身の内なる野性（「心」身体）を統御することを目指して用いられてきた。それが、生物の頂点に君臨するわれわれ「霊長類」の当然の権利であり、また望ましいことであると信じられてきたからである。

そして、そのような理性の用い方によって、近代以降の文明は生み出されてきた。

われわれを取り巻くさまざまなものは、おかげで確かに便利で高機能なものになったし、物事はことごとく効率化され、それによって生じたせつかくの時間さえも、きれいに潰してくれるツールが各種取り揃えられた。

最近では、電車の中でも歩きながらでも、大部分の人間がうつむいてスマートフォンと向き合っている。人類にとって二十世紀とは、科学技術が目覚ましく進歩し生活も高度に

近代化されたために、誰もが理性の見事な成果に浮かれ、酔いしれ、理性を過信した時代でもあった。

しかし、そんなわれわれ「霊長類」の理性は、ここに来て、あちらこちらでほころびを見せ始めている。

最近のごく代表的な例をあげてみるだけでも、最高水準の知性が計画したはずのサブプライム・ローンが破綻してリーマン・ショックがひき起こされ、次々に開発された抗生剤は厄介な耐性菌を生み出し、ワクチンによる対策を声高に行えどもウイルス感染症はパンデミック（世界的流行）の恐れをはらむものになり、がん検診を行えば行うほどがん患者数はあべこべに増加している。そして、識者の想定では安全なはずの原子力発電所は放射能を撒き散らし、新しい抗うつ剤が次々に開発されてもうつ病患者は増え続け、日本の自殺者数は東日本大震災の犠牲者数をはるかにしのぐ年間三万人超の高水準を十数年にわたって更新し続けていた。

これらすべてに共通するのは、「想定外」というキーワードである。人間の理性が「想定」し得るものがいかに貧弱なものに過ぎないかということが、誰にでもわかるような形で露呈し始めたのだ。

理性の最後の歩みは、理性を超えるものが無限にあるということを認めることにある。それを知るところまで行かなければ、理性は弱いものでしかない。

パスカル『パンセー』 前田陽一・由木康訳、中公クラシックス

理性は限定的に有用なツールに過ぎず、理性で扱えないもの、扱うべきでないものがこの世界には無限に存在している。われわれは、これをよく知った上で理性を用いなければならない。哲学のみならず数学、物理学にも大きな足跡を遺したパスカルは、十七世紀にして、すでにこのような警告を遺していたのだった。

しかし、近代以降の人間はこの警告を忘れ、理性を万能なものと過信してしまった。そして、人間中心主義の思い上がり^のに後押しされて、コントロールすべきでないさまざまな対象をも力ずくでコントロールすべく、理性を乱用してしまったのである。その結果、われわれは今日、さまざまな形で、手痛いしっぺ返しを喰らうはめになってしまった。

このような誤った理性の用い方は、人間を対象にしたコントロール、すなわち、教育やしつけにおいても、脈々と行われてきた。

教育は、ひたすら若い者たちに「理性による自己コントロール」を奨励し、これを叩き込んできた。これはつまり、われわれの内なる自然である「心Ⅱ身体」を、理性の場であ

る「頭」よりも劣等なものと見なし、これを奴隷のように扱って「自分を律する」ことができるのが立派な人間の姿である、という洗脳を施したに等しい。

しかし、それによって人間は決してまじな存在になりはしなかった。むしろ、内なる自然と断絶したがゆえに、徐々に「生き物」らしからぬ状態に変質してしまったのである。

たとえば近年、言われたことしかできない「指示待ち人間」や、マニュアルがなければ作業に手を付けられない「マニュアル人間」が増えてきていることは、さまざまな学校や職場において問題視されている。また、ひたすら多読に努めたり、インターネット上の情報をかき集め、それらを組み合わせ並べ替えることを知的な活動と勘違いしているような、文字通りの「知識人」も目立つようになった。

これらの人々に共通して見てとれるのは、理性をコンピューターのごとく「情報処理」のためにだけ用いている不自然さである。そこには思考の主体性や即興性、そして懷疑的精神が決定的に欠如しており、本来思考が備えているはずの創造性が認められない。これは、真に人間らしい知性からずいぶんかけ離れた、貧しい理性の状態と言わざるを得ない。

その一方で、真つ当な懷疑的精神を失っていない人間は、今日の社会や組織から不都合な存在と見なされやすく、排除されてしまうことも珍しくない。そのため、真の思考力を